

D11 深層インタラクション

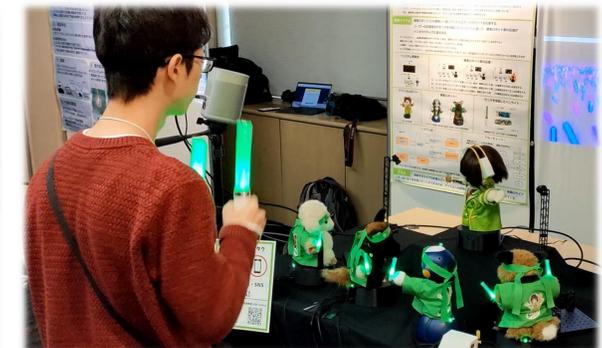
ご当地ロボットの開発とそれを用いた場の創生

概要

地域活性化は、日本全体の活力を向上させる上で喫緊の課題です。この課題解決には、そこに人が集まりたくなる場の創生が必須です。本研究は、日本各地に存在するご当地キャラクタをロボット化し、それを用いることで場の創生を行う手法を提案し、精華町のご当地キャラクタである「京町セイカ」を題材に、地域のみなさんと研究を進めています。

特徴

- 従来は概念的にのみ存在していたご当地キャラクタを、大規模言語モデルを用いることで対話可能なロボットとして実体化しました。このようなご当地キャラクタと実際に喋る、という体験が、そのキャラクタや、そのキャラクタが象徴している場のイメージにどのような影響を与えるのか調査し、ご当地ロボットを用いた新たな場の創生手法の確立を目指します。
- このようなご当地キャラクタを用いた場づくりは、偶像(アイドル)を集合知的に生み出し、それを維持していく集団の力動を生み出し、それが地域活性化の原動力になるのではないかと考えています。



今後の展開

- どのようにご当地ロボットを運用することで、場の創生が促進されるのか、その理論的基盤を打ち立てることを目指しています。このような理論が確立されることで、京町セイカ以外のご当地キャラクタでも同様な検討が可能になります。

テーマ「万博、そしてその先へ ～科学技術が描く未来～」との関連

- ご当地キャラクタという日本独特の文化をベースとしたご当地ロボット研究を推進し、日本文化に根差した新たなテクノロジーの創生や、それがもたらすイノベーションの実現につなげます。